

地域をつなぐキーパーソン「生活支援コーディネーター」

この事業を進めていくうえで欠かせない存在が「生活支援コーディネーター（SC）」です。町内での困りごとや地域の声を集め、住民同士や関係機関をつなぎながら、支え合いの仕組みを広げる“つなぎ役”として活動しています。

具体的には、右のページで紹介した4つのステップの潤滑油としての役割をSCが担い、住民同士の支え合いを後押しし、助け合いの輪を広げる調整を行っています。

コーディネーターからのメッセージ

町内をまわる中で、75歳を過ぎても本当に若々しく元気な人が多いと感じます。ただ、今は大丈夫でも、いつか車に乗れなくなったり、買い物や通院などで不便を感じる日が来るかもしれません。

そんな時に「誰に相談したらいいの？」と思うかたが少なくないと思います。まずはいろんな世代の人が気軽に顔を合わせて話したり、一緒にご飯を食べたりできる場を広げていきたいです。

様似町の困りごとは、様似町のみんなで考え、支え合って解決していけたら——そう思っています。

●困りごとやご相談はこちらまで
生活支援コーディネーター定木基
(TEL 080-3266-8782)

「ちょっと話を聞いてみたい」「こんな活動があるよ」というかたもお気軽にご連絡ください。



様似町生活支援コーディネーター
定木 基さん

気軽にSCさんとお呼びください！

生活支援サポーター制度のご紹介

「生活支援サポーター」の制度は、地域の支え合い、助け合いを具現化した仕組みのひとつです。

町の養成講座を通じて登録したかたがたが、日常生活の中での「ちょっとした困りごと」を手助けしています。支援が必要なかたの相談内容に応じて、サポーターの活動を生活支援コーディネーターがマッチングしています。



オール様似で支え合うまちへ

高齢者も、子どもも、働く世代も、町全体で支え合う“オール様似”の意識を持ち。誰もが安心して暮らせるまちへ。あなたが主役です！！

■生活支援サポーターできることメニュー■

1 ゴミ出し	16 日曜大工
2 電池交換	17 買物の代行
3 話し相手・見守り	18 簡単な掃除、片付け
4 安否確認	19 季節の衣替え
5 電球交換	20 家電製品の調整
6 除雪	21 ペットの散歩
7 裁縫	22 除草・庭整備
8 薬の受け取り	23 ポータブルストーブの灯油入れ
9 魚をおろす	24 書類の確認
10 カーテンの洗濯	25 手紙の代筆
11 服薬の声掛け	26 通院の付き添い（移送車両に同乗）
12 お墓掃除	27 ペットボトルの開閉
13 百歳体操・ふまねつとの出張開催	28 新聞・雑誌ダンボールの処分
14 窓ふき	29 外出時の身支度の促し
15 仏壇・神棚掃除	30 認知症カフェのお手伝い

サポートのご依頼は

生活支援コーディネーター 定木 基
(080-3266-8782) までご連絡ください。

※ご依頼の内容や日時、地域等によって、サポーターとマッチングできない場合があります。あらかじめご了承ください。

「オール様似」で支えるこれからの暮らし
生活支援体制整備事業がめざすもの

支え合いの体制づくり

住み慣れた様似で、誰もが安心して自分らしく暮らせるように。町では、地域の支え合いを広げるために「生活支援体制整備事業」を進めています。

この事業は、行政だけでなく、民間企業や地域の団体、ボランティアグループ、そして町民一人ひとりが参加する「オール様似」で支え合いの仕組みをつくっていく事業です。

さらには、高齢者のかたも介護や支援を「受ける」だけでなく、地域の一員として役割を持ち、誰かを「支える」側にも立てるようにする取組でもあります。立場や世代をこえて助け合い、人と人がつながりながら安心して暮らせる様似の実現をめざしています。

町では、地域での支え合いを段階的に広げていくために、次の4つのステップに沿って、生活支援コーディネーターと連携して事業を進めていきます。

ステップ1 しらべる

どんな支援が必要とされているか、それに応えられる団体・活動があるかを把握します。

ステップ2 みんなで考える

地域団体や地域の住民などが集まり、協議体を設置。生活支援コーディネーターが中心となり、支え合いのネットワークを築きます。

ステップ3 つくる

地域に足りない生活支援やサービスの充実や強化、地域住民が担い手として活動する場をつくりします。

ステップ4 つなぐ

具体的な支え合い活動が始まります。高齢者を含む多世代の地域住民が担い手として活動できるよう支援します。

将来の様似町の人口から見えること

支える人が減り、

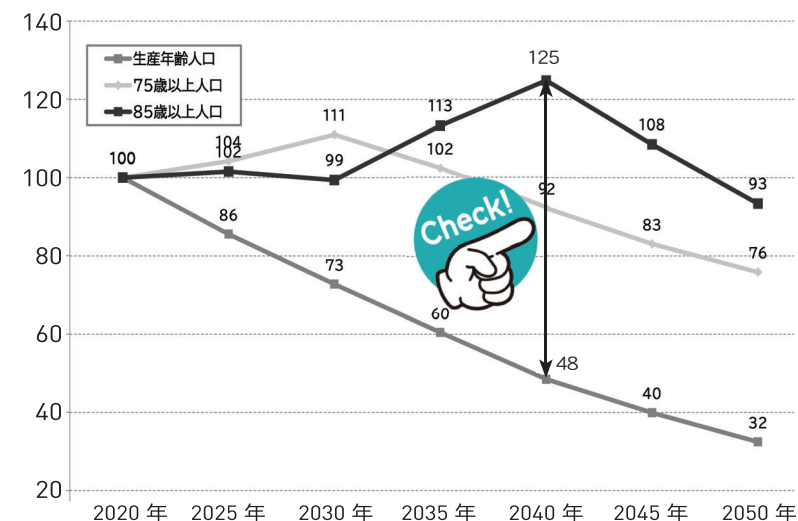
支えが必要な人が増える

2020年を基準にした将来推計によると、様似町の生産年齢人口（15～64歳）は今後も減少を続ける見通しです。一方で、支援が必要となる85歳以上の高齢者人口は2030年から2040年にかけて約**25%増加**すると予測されています。

グラフで見ると、年を経るとともに「支える側」と「支えられる側」の差が大きく広がっていくことが分かります。

このままでは、公的なサービスだけでは支えきれない時代がやってきます。だからこそ、今、「わがこと・まるごと」の考え方——自分のこととして、地域全体のこととして、誰もが地域の一員として助け合う「オール様似」のまちづくりが求められています。

＜2020年の人口を100とした場合の人口予測＞



出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
「総合事業の充実に向けたワークシート」